



様式第6号(会派用)

政務活動実施報告書

平成30年11月29日



村上市議会議長 様

会派名 鷲ヶ巣会

代表者氏名 板垣一徳



当会は、下記のとおり政務活動を終了しましたので報告します。

	代表者 確認印		経 理 責任者 氏名印	渡 辺 昌	
用 務 名	(1) 米粉製造の現状について (2) JR 中条駅自由通路整備について				
実 施 日 時	平成30年11月 28日(水) 午前9時30分～10時40分 午前11時00分～11時50分				
用 務 先	(1) 胎内市 「新潟製粉株式会社」 (2) 胎内市 「JR 中条駅」				
参 加 議 員 名	板垣一徳 大滝国吉 小田信人 鈴木いせ子 本間善和 河村幸雄 渡辺 昌				
全 体 参 加 者 数	7 名				
概 要 及 び 所 見	※記載欄が不足する場合は別葉に記載すること。 (別紙参照)				
備 考					

概要及び所見

(1) 米粉製造の現状について 胎内市 「新潟製粉株式会社」

新潟製粉株式会社は、新潟県が技術開発した微細製粉技術による新規米粉実用化へのモデル工場として、平成10年に旧黒川村に設立された。同22年には最新技術を導入した第2工場が稼働し、業界トップの規模となっている。

米粉の原料はすべて県産米で、その大部分を「北越後」「胎内市」「にいがた岩船」の各JAから調達しており、契約水田800haには主にコシヒカリが作付され、村上市からは約600tが供給されているとのこと。製造される米粉は主に業務用で、200社以上の企業と取引があり、国内製パン業界大手の敷島製パン(パスコ)の米粉パンや、コンビニのローソンの米粉蒸しパンなどをはじめ、パンや菓子類だけでなく様々な食品に米粉が使われている。

今後の課題をお聞きしたところ、県産米粉のブランド化の取組や、コシヒカリの農作業と時期の重ならない、米粉のための新しい品種も必要性を挙げられた。

非主食用米の作付けが5割に達するといわれる中、稲作主体の農業を守り維持するため、米粉はその救世主となるものではないかと感じた。胎内市では、「米粉発祥の地」としてその需要拡大に熱心に取り組んでいるが、多くの本市産米も米粉の原料となっていることから、本市も共に米粉の需要拡大に取り組むべきであると認識した。

(2) JR中条駅自由通路整備について 胎内市 「JR中条駅」

駅の東西を結ぶ自由通路と橋上駅舎が平成30年7月に完成し、胎内市の新たな顔・拠点となったJR中条駅。電車を利用する人だけのものではなく、交流の拠点や日常の活動の場とするコンセプトが反映された施設であり、所々に胎内市をイメージした意匠が施されていて、明るく温もりの感じられる建物となっている。

駅西側地域では以前より土地区画整理等により宅地化が進み、人口の約半数が西側地域に居住する状況となっていた。そのため胎内市では、鉄道線路等で分断されている市街地の連携、駅周辺の利便性向上と中心市街地の活性化を図ることを目的に、東西自由通路と橋上駅舎、西口駅前広場の整備を核とする「中条駅西口周辺整備事業」を計画し、新しいまちづくりに取り組んだ。28年に供用された西口街路整備を含め総事業費は約24.0億円で、その内東西自由通路に約7.7億円、橋上駅舎に約10.8億円(内JR負担約1.2億円)の事業費となっており、国が約4割、残りの約6割が市の負担で、その大部分には合併特例債が充てられている。

本市では、厚生連村上総合病院の村上駅西側への移転新築事業が進められている。27年度には「村上駅周辺まちづくりプラン」(基本構想)が策定され、その中で駅東西の連絡性強化や公サービスの利便性向上のため、駅東西連絡通路の整備、駅西側駅前広場整備の取り組みが明記されているが、その後、事業の具体的な動きは見られないのが現状である。本市の財政状況を踏まえながらも、一刻も早い駅西側周辺の整備事業への取り組みが必要であると考えます。